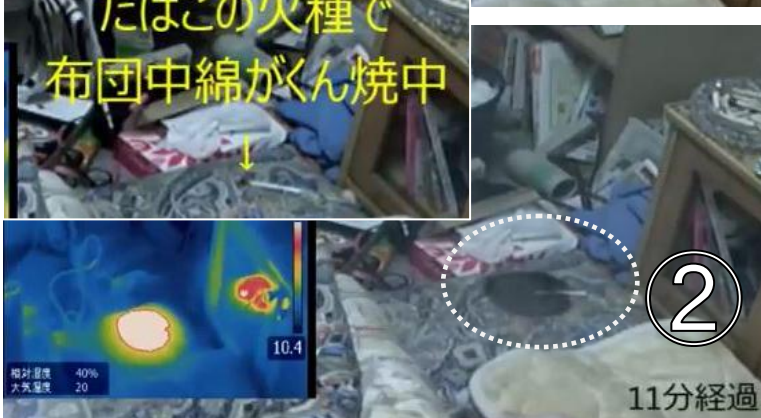


週刊 **タバコの正体**



タバコの煙を吸うためには火をつけなければなりません。そのため、昔からタバコの火は火事の大きな原因で、消防庁の発表では平成29年度中の出火原因の9.4%を占め第1位となっています。

タバコの火は炎があがりません。だから、左の画像のようにベッドの枕元にある灰皿から、まだ消えていないタバコが布団の上に落ちたとしても一見何も起こりません①。しかし「くん焼」と呼ばれる無炎燃焼が進行して、1分もすると布団に焦げた跡が、かなり広がります②。そして24分後には、ついに炎をあげて燃え始めます③。そして発火して5分もたつと、ご覧の通りまぎれもなく“火事”になってしまうのです④。

炎が上がっていないので油断してしまい、タバコの火を確実に消さずにいるとこんな危険なことになるのです。

最初に紹介した消防庁の発表では、こんなタバコの火事が1年間で3712件もあったそうです。きちんとタバコの火を消していれば起きることがなかった火災です。

もっと言えば、タバコに火をつけていなければ発生しない災害がこんなにあるのです。

さらにもっと言えば……

タバコを吸う人がなくなれば火事の1/10はなくなるのです。

産業デザイン科 奥田 恭久